

岐阜同朋

あわびの念仏

102

2010.07

- 生きるって どういうこと (青木 平七郎)
- 流刑の地「居多ヶ浜」を訪ねて ● My Book
- 今を見る 今を問う
- 美濃門徒の昔話 あわびの念仏



羽島市正木町上大浦・橋之御旧跡(河田家)に伝わるあわびの念仏

美濃門徒の昔話



あわびの念仏

聖人は河田家に滞在中「南無阿弥陀仏をとなえれば、誰でも救われる」という阿弥陀仏への信仰を説きました。信心深い彦左衛門は、聖人のお話に感銘を受けました。お茶菓子に庭先の九年母(くねんぼ)というみかんの実を出しました。聖人はたいそう喜んで食べられました。が、九年母の種が糸切り歯につかえて、糸切り歯は肉がついたまま抜け落ちてしまいました。

木曾川の堤防に沿って尾濃大橋の下をくぐると、河田家の門前に立つ親鸞聖人の銅像がみえます。これは、聖人の旧跡にちなんで昭和46年に建てられたものです。在家唯一の聖地であるので、「橋之御旧跡」として、多くの人々に親しまれています。

嘉禎元年(1235)、念仏の布教に関東を回っていた親鸞聖人は、関東から京都に帰る途中に、大浦(現在の羽島市正木町上大浦)にも立ち寄って布教しました。その時、河田彦左衛門の屋敷を訪ね河田家に二泊三日の逗留をしたと言われます。この時の信仰にまつわる不思議な話がいくつか伝えられています。



親鸞聖人の糸切り歯を納めた宝塔

「私のいうことと仏が言われることと同じなら、この種はすぐにも芽が出るでしょう。」と言って、庭先に投げられました。するとその種はみるみるうちに芽を出し、河田家の人々は驚きのあまり思わず手をあわせました。夜になって、彦左衛門は聖人のためにごちそうを用意しました。遠い伊勢国から特大のあわびを取り寄せました。聖人はたいそう喜んで、あわびを「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」といつて食べられました。すると、そのあわびの貝殻に、「南無阿弥陀仏」という文字と、その下には蓮の花が浮かび上がってきたのです。「これは何ということだ。」と、彦左衛門は驚いて思わずこのあわびを拝みました。



六字の名号と蓮の花が浮かび上がるあわびの貝殻(表紙参照)

不思議なことが続き、二日間ほまたたくうちに過ぎ、いよいよ三日目の旅立ちの朝、河田家の人々は、聖人と別れることが寂しくてたまらなくなり、思いあまって女中が言いました。「御聖人様、もう一晩お泊まり下さい。おなごりおしくてたまりません。」すると聖人は、「ありがたいことです。しかし、私は行かなくてはなりません。では、形見の品を何か持ってきたさい。」と言われ、女中は河田家でたいへん大切にされている鏡を持ってきました。聖人はその鏡



河田家御夫妻と圓養寺住職

に自分の姿を映されました。すると、また不思議なことに、鏡に聖人の旅姿がくっきりと映し出され、写真のように焼き付いてしまったのです。鏡に映った聖人の姿は、その後も消えることはありませんでした。またある時泥棒が入りこの鏡を盗もうと、鏡を持って掘まできたとたん泥棒は動けなくなり、ついに鏡を放り出して逃げ出してしまったという言い伝えもあります。この時、形見として聖人は自ら彫られた御木像も置いていかれました。その後、鏡や御木像は寺に預かってほしいということ、今は名古屋にある聖徳寺に鏡が、圓養寺(羽島市正木町坂丸)に御木像が納められました。

「居多ヶ浜」を訪ねて

去る4月14・15日、教区主催の「親鸞聖人越後御跡を訪ねて」の研修旅行に参加させていただきました。東海・北陸地方にたいへんな寒波が襲い、ことに新潟は4月も半ばというのに雪が舞うほどの荒れた天候となりました。私にとつて初めての新潟は「涙が出るほど寒く辛い」ものでした。親鸞聖人が流罪にあわれたのもちようどこの時期ということ、宗祖のご苦勞を偲ばせていただくにはまたとないご縁となりました。とりわけ最初に訪れた親鸞聖人御上陸の地「居多ヶ浜」は強く印象に残りました。鉛色の空の下、吹きすさぶ風を受け、浜の波打ち際まで降り立ち、荒波の打ち上げる音を聞きながら、小舟で二人のお供を連れこの地に上陸なさった宗祖のお姿を目に浮かべさせていただきました。

親鸞聖人は今から803年前の1207年(承元元年)、旧仏教勢力の圧力を伴う朝廷からの念仏の弾圧によってこの越後新潟の地に流罪とされます。世にいう「承元の法難」です。法然門下の安樂、住蓮を含む4名が斬首、法然・親鸞を含む8名が流罪にあわれます。時に親鸞聖人35歳、比叡山を下り、吉水の法然上人の門をたたかれて6年目のことでした。後に、

「主上臣下、法に背き義に違し、忿を成し怨を結ぶ」(教行信証)と為政者の無法、非道を厳しく指弾なさっておられます。法然上人は土佐へ、親鸞聖人は越後に遠流となり、お二人は生涯を通して二度とお会いになることはありませんでした。念仏教団を破壊され、ともに教えをいただいた仲間を殺害され、生涯の師法然上人と今生の別れをせねばならなかった宗祖のお心はいかばかりであったでしょうか。

しかしながら、親鸞聖人は、「大師聖人(源空)もし流刑に処せられたまわらずは、われまた配所に赴かんや、もしわれ配所におもむかずは、何によりてか辺鄙の群類を化せん、これ猶師教の恩致なり。」(御伝鈔)ともおっしゃっておいでです。どんな逆境をも耐え忍ぶのではなく、このご縁を念仏興隆の勝縁として受け止め、力強くご教化に励まれた宗祖のお心が偲ばれます。なりふりかまわず、その日の生活に精一杯の越後の「ゐなかの人々」とともに田畑を耕しながら、ご本願を喜び合い、厳しいくらしの中でお念仏のみ教えをいただくにいかれたのです。

今回の研修では、この親鸞聖人御上陸の地に建つ「居多ヶ浜記念堂」を訪ね、ご堂主のお話を聞くご縁をいただきました。

為政者と一つになって吉水教団を断罪したその有様に「末法」を見られたのでしよう。「末法」であるがゆえに「ご本願」のほたらきに目覚め、出会っていかれた聖人の御心がうかがわれます。

御遠忌法要を明年に控え、宗祖親鸞聖人が生涯を通して担われた課題を、共々に自身の上に明らかにしてまいりたい、そんな思いをあらたにした2日間でした。

(尾畑英和)

お話の中で「こ越後国国府はシルクロードの最終着点——終着点は出発点 本願の道・親鸞の道」とのお言葉をいただき感激いたしました。正に、親鸞聖人は踏みつけられてさらに強く、時にやさしく、すべての人を平等に見捨てることなく、大きな本願のおはたらきの中でもれなく救われていく世界を、この越後の生活の中から獲得なさっていかれたのです。それは仏教の(シルクロードの)最終着点という言葉に相応しい教えなのです。われら凡夫にはこのご本願で救われるしかないのです。

「弥陀の本願信ずべし 本願信ずるひとはみな 摂取不捨の利益にて無上覚をばささるなり」、正像末和讃の冒頭の和讃です。この和讃には珍しく「康元二歳二月九日寅時」と制作日時が記されています。康元2年(1257年)2月9日は「承元の法難」で安樂・住蓮ら4名が死罪になった日(1207年2月9日)からちょうど50年目のその日に制作されたということ。これは、親鸞聖人が50年間、片時もこの法難をお忘れにならなかつたということを意味します。親鸞聖人は、当時の既成仏教教団がまさに衆生を救済する本分を忘れ、



MyBook Story & Review

手塚治虫漫画全集 88巻
メタモルフォーゼ



講談社 591円+税
(現在入手困難)

メタモルフォーゼとはドイツ語で変容、変身、転生という意味で、タイトルどおり「変身」をテーマにした短編が7話収録されています。今回はその中のひとつを紹介いたします。

聖なる広場の物語

初出は1977年、ちょうど東西冷戦の真最中で、またチエルノブイリ原発事故(1986年)の9年も前に発表された作品です。

★「西の枝」という鳥たち



東のボス鳥

のコミュニティーがありました。そこには大きな(西の)ボス鳥がいました。西のボス鳥がやっていることは、攻撃してくる東のボス鳥からみんなを守ることに。その代わりに餌を徴収しています。正義の味方ですが、恐れられています。大きな身体を有するボス鳥2羽から連想されるものは、アメリカと旧ソ連そのものであり、小さい鳥たちは国民を見立てているようにも思えます。

「聖なる広場」にあります。そこに砂を浴びれば強く変身できますが、遠いので強靱な翼が必要で。

2羽のボス鳥がより強大な力を得ようと、怪しげな聖なる広場に出掛ける様は、軍備拡張と権力志向を彷彿させます。

東のボス鳥がパワーアップすれば、西のボス鳥も…そのたびに体は巨大化、つめも牙も鋭くなります。その体を維持するため、卵を要求しはじめ、さらにはヒナまでも…。我慢できなくなった小さい鳥は自分もパワーアップしようと思ひ、聖なる広場にポロポロになりながら行きます。

そこで見たものは…。聖なる広場とは廃棄された工場、砂場とは工場から出た公害物質で汚染された大地でした。ボス鳥たちは汚染物質で、突然変異を繰り返していただけでした。ボス鳥が狂っていると思つた小さい鳥は、ボスと戦うことを決心。

やがて、西のボス鳥が鳥たちを食べにきました。みんな戦いました。そして多



(952円+税)

今を見る 今を問う

No.2

「岐阜同朋」編集委員 櫛田昭裕

核家族化、少子高齢化は凄まじい勢いで日本社会を変革している。私たち宗門にも待ったなしで対策が迫られている。

その第1に挙げたいのが、学校。特に、真宗(仏教)を学ぶ場として、次世代を担う人を育てる場として最も大切な宗門系の大学は、対応が後手後手に回り、定員割れ、募集停止等、運営的にも危機的状况に追い込まれつつある。愛知新城大谷大学・同短期大学部では今年度より学生募集を停止した。

同朋大学(同朋学園)においても、2007年度入試において志

願者・入学者数共に激減し、その後も歯止めがかからない状態。特に仏教学科の志願者が少なく経営的には苦しいと思われる。名古屋音大(同朋学園)は7年連続で定員割れ。大谷大学も偏差値が下がり続け学生から敬遠されているのが現状である。寺族の子弟でさえあえて宗門系以外の大学を希望する人が増え続けている。

先生は生徒の無気力を嘆いているが、学生は学生で真剣に向き合ってくれない先生と希望が持てない未来設計を嘆き、進むべき道がはつきり見いだせず悩んで

いる。「生きる力」を育み、「共に生きる力」の源泉となる真宗(仏教)の教えを通し、時代がどんなに変わろうと変わらない普遍的価値を見いだせる大切な場が大学だ。利益重視の勝ち組思想を追求する他大学にない魅力を是非発揮して欲しい。

魅力ある大学を構築することは、魅力ある人物を育てることにつながる。魅力ある人物が寺や宗門を支える。立地条件の良さや建物のすばらしさだけでは魅力ある大学とは言えない。理念を離れた自己満足と情性の経営では、人は離れ、人物は生まれ育つていかない。あえて恐れず諫言すれば経営に対する意識改革しか存続の道はないのではないか。

今は、魅力ある特色を出すことへの他に運営ということも重要な課題である。財源は限られているのだから。学生には学んだことを生かせる場が必要だ。就職問題は学生にとって最大の関心事だ。全力を挙げ学生をバックアップしなければならぬと思う。

押し切っておよそ18億円もの大金を使い売れ残っていた古いビルを全て店頭から回収・廃棄した。なんと捨てるためだけにである。この「捨てる」ことが結果的にアサヒ再興につながった。さらには、前例がない「味を変える」ことに挑戦する原動力となった。

彼は、社員に「前例がないからやらない」のではなく、「前例がない。だからこそやる!」という発想の転換を求めた。発想を変えれば前向きになれる。彼はビルそのものは素人だったが、その意味で、何の先入観もなく「当たり前」の当たり前を当たり前にする。うー!「人マネはやめよう!」と呼びかけることが出来た。その発想の転換から完成させたのがアサヒスーパードライだ。

今の時代だからこそ、清沢満之のような使命感と崇高な理想と情熱をもって大学運営にあたって欲しい。樋口廣太郎のように現実を認め自ら頭を下げて、何が問

重い肺結核を患い死と向き合いながら清沢満之は、明治32年37歳の若さで本願寺の要請を受諾し「真宗大学」の名で始まった大谷大学初代学監(学長)に就任した。

「他日欧米より仏教を学ばんがために日本に留学するものあらば、必ず先づ真宗大学に来るべし」と真宗(仏教)の教えが世界中の人々の救いになるように崇高な理想を掲げ、仏教を学ぶための世界の中心大学をめざした。

開学式典では、「本学は他の学校とは異なり宗教学校なること、殊に仏教の中において浄土真宗の学場でありませぬ。即ち我々が信奉する本願他力の定義に基きまして、我々に於て最大事件なる自己の信念の確立の上に、其信仰を他に伝える、自信教人信の誠を尽くすべき人物を養成するのが本学の特質であります」と真宗の学びの

題かを他社(他大学)や現場から率直に学ぶ勇氣と、前例がないことに挑戦するための発想の転換が、今、求められている。守るべきものは守り、変革をすべきものは勇氣を持って進めて欲しい。経営に対する意識改革をして欲しい。

宗門も大学問題に真剣に取り組み支援し、人の発掘にも力を入れることを望む。やる気ある人や感性ある人を寺族以外でも積極的に採用し、適材適所に進んで登用する勇氣を期待する。

編集後記

先日、3D(三次元)映像による劇場公開が大きく取り上げられた映画「アバター」を観ました。そこには存在しないものが、あたかも存在するかのような視覚的錯覚にとても驚かしました。その3D機能を持った薄型テレビの発売も、今話題になっています。

近い将来、この「岐阜同朋」も紙ではなく、デジタル(さらに3D)に媒体を移して、皆さんのところへお届けする日がくるかも! (吉田 慧)